

ボランティアと協働する祭りの継承

- 京都府南丹市美山町鶴ヶ岡地区の「上げ松」の事例 -

佛教大学社会学部大谷ゼミ美山班

○種村 光太郎 (Kotaro Tanemura) 大谷 知也 (Tomoya Otani)

一口 皓平 (Kohei Imoarai) 金谷 宙良 (Sora Kanatani)

京森 貴哉 (Atuki Kyomori)

(佛教大学社会学部現代社会学科)

キーワード：協働、ソーシャル・キャピタル、ボランティア・ツーリズム

1. はじめに

(1) 研究目的

京都府南丹市美山町には、地域住民中心の関係性の中で18世紀頃から受け継がれる伝統的な祭り「上げ松」がある。美山町は林業が栄えていたため、火伏せの利益があるとされる上げ松は、地域住民の間で重要な神事として継承されてきた。

しかし、美山町には地域振興の中心となっている振興会や青年会など住民ネットワークが存在しているにもかかわらず、現在、1人暮らしの高齢者が多く、地域住民間のネットワークが希薄になり、地域内のソーシャル・キャピタル (SC) が醸成されにくい状況である。加えて、人口減少、少子高齢化が進む美山町では、祭りの担い手不足により上げ松の実施が困難になっている。

一方、地域住民を主体とした運営による住民の活動参加には限界があり、ボランティアなどの他団体と連携することで地域活動の効果が高まるという指摘もなされている (近藤 2017)。

そこで我々は、上げ松の準備、運営などの地域活動をボランティアと協働し地域内外に新規ネットワークを構築することで、地域振興の中心である振興会など住民ネットワークが活発化することを目的とした政策を提言する。

なお、本報告では、便宜上、地域とは美山町、地域外とは美山町外と定義する。また、SCは、パットナム (2001) の「信頼・規範・ネットワーク」などの社会的仕組みの特徴」と定義する。

(2) 先行研究

SCに関しては多くの研究がなされている。その中で、祭りとSCの関係性について稲葉 (2016) は、「祭りはまさに、結束型、橋渡し型、リンクンなソーシャル・キャピタルの総合醸成装置」と述べている。

一方で、祭りとボランティアの関係性についての研究は少ない。その中で樋口 (2014) は、京都祇園祭で行われるボランティアを例に、ボランティアが祭りの運営の手伝いの際に理解すべき点について、「祭りを動かしているのはあくまでも『伝統的共同』にもとづく町内であり、町内が主

体の祭りであるという『祭の「主旨」を理解してもらうこと』が、“運営” 組織・集団にとって重要なことなのである」と論じている。

では、地域と協働するボランティアにはどのような効果があるのだろうか。ボランティアの効果について、浅野 (2013) は、「他の活動では得られない学びも多く、協働体験から生まれる一体感や新たなネットワーク作りは健全な市民社会を築く力となる」と説明している。

以上の研究から、地域外のボランティアが祭りの主旨を理解し、地域で活動を行うことは、受け入れ先の地域住民、活動する地域外からのボランティアの双方においてメリットがある。また、地域内のネットワークを強固にし、SCの醸成及び、祭りの継承、存続に有意義であると考えられる。

2. 対象

(1) 地域について

美山町は、5つの地区 (知井、平屋、宮島、鶴ヶ岡、大野) から構成され、町の96%は森林で覆われており、田園風景などの日本の原風景が色濃く残る。京都市内から車にて1時間ほどで向かえる中山間地区である。気候は、多雨多湿で年間平均雨量が多く、12月～2月は積雪量が多い。

地域内では、道の駅「ふらっと美山」 (平屋) での特産品販売、地域出資型店舗の「タナセン」 (鶴ヶ岡) の設置など、地域活性化の取り組みを幅広く実行している。

美山町の2019年現在の総人口は3,730人、殿区の2019年現在の総人口は68人である。また、2019年現在の美山町の高齢化率は46.64%、殿区の高齢化率は44.93%であり、全国平均と比較して高い傾向にある (南丹市 2019)。

(2) 上げ松

上げ松 (柱松) は、主に西日本に分布し、美山町の場合は、若狭街道に分布する柱松の部類に含まれる。美山町の上げ松は鶴ヶ岡地区、知井地区の内の4ヶ所で伝承される火祭りである。毎年8月24日20時ごろからの約30分間、川べり一帯に点さ

れた松明を、高さ20m以上の灯籠（トロ木）の先に松の葉など燃えやすい葉を入れた火受け（モジ）に放ち、点火する。それが愛宕権現への火伏せと豊作を願った献灯となる。

3. 研究方法

私たちは美山町鶴ヶ岡殿区と上げ松を対象に、①鶴ヶ岡振興会会長下田敏晴氏へのインタビュー（2019年7月12日）、②元美山観光協会会長神田和行氏へのインタビュー（同年8月23日）、③上げ松の準備運営に参加している方々へインタビューと参与観察（同年8月24～25日）を行った。

4. 調査結果

下田氏や神田氏へのインタビュー調査から、地域内で神聖な神事として上げ松を継承するためにモジ制作の簡素化や、空き家を整備し定住化を図るなど、様々な取り組みを行っていることが分かった。一方で、定住が進まず、空き家が活用できないと同時に高齢化で人口が減少し、上げ松の担い手不足に悩んでいると伺った。対策として、神事を世俗化することへの葛藤がありつつも開催日の変更や、他地域の人にも上げ松に参加してもらう取り組みを行うことで結束型、橋渡し型SCとしての機能を上げ松に求める傾向が見受けられた。

また、地域住民へのインタビュー調査から、地域住民には上記の取り組みを肯定的に捉える人が多いことが分かった。そして、上げ松が開催されるたび、地域外で働く美山出身者が帰省することを望む結束型SCの機能、地域外の若者が美山町を訪れ、上げ松の準備、運営を手伝い、高齢者にはできないことをボランティアなどの形で受け持つてほしいという橋渡し型SCとしての機能を上げ松に求める傾向が見受けられた。

この調査結果から、地域内外をつなぐSCを醸成し、地域内のネットワークを強固にする必要があると考える。

5. 政策提言

以上の先行研究と調査結果を踏まえ、上げ松をボランティアと共に継承し、地域内外に新規ネットワークを構築することで、振興会をはじめとする住民ネットワークが緊密になることを目的とした政策提言を行う。

初めに、地域に継続的なボランティアを呼び込むため、短期間の日程で美山町において、ボランティア活動を目的とした「ボランティア・ツーリズム（VT）」を実施することを提案したい。VTとは、「ボランティア活動が旅程に含まれる旅行」と依田（2011）は定義している。このVTを実施することで、年間を通して美山町に継続的に地域外の人を呼び込み、ボランティア活動を行う。

具体的には、美山町または振興会と旅行代理店

が連携し、地域の魅力を伝えるため季節に応じた観光ツアーを設け地域内の需要に応じた労力を提供する観光客を募る。ボランティアの内容としては、上げ松の準備・運営の手伝いや、雪かきなどである。旅行代理店はSNS・HP等を運営し、VTへの参加を呼びかける。美山町は、ボランティアへの協力として有料で空き家をツアー代の中に組み込み、宿泊場所として提供する。そして、申し込んだ参加者には美山町が指定する場所で事前研修として地域の現状を説明し、参加者に地域が求めているボランティアの役割、上げ松の意味を把握してもらう。その上で参加者は、現地に赴きボランティア活動や観光を行う。VT終了後、美山町は、参加者に月2回程度メールやチラシなどで地域内のイベントや、地域の様子、ジビエなどの料理の紹介、また次回以降のツアーで使える割引券や友人割引券などを送付する。

その結果、参加者から社会にSNSなどのメディアを通じて、地域の取り組みが他地域の人々に広く発信され、VTの取り組みが認知される機会が増える。このような試みを行うことで、地域に魅力を感じた人がVTに参加し、その継続性が高まる。

以上の政策を実施することで、地域内で地域外の人々のボランティアの活動機会が増え、上げ松の運営などをサポートし、上げ松の継承が可能になることで結束型、橋渡し型SCが醸成される。

その結果、地域外との新たなネットワークが構築され、地域活動の基盤が強化されることで、振興会をはじめとする住民ネットワークの活発化へとつながる。

参考文献

- ・浅野英一 2013「ソーシャル・キャピタルの観点から見た学生ボランティア活動による過疎地域の活性化——和歌山県すさみ町におけるケース・スタディ」『撰南経済研究』第3巻第1・2号
- ・稲葉陽二 2016「都市祭礼とソーシャル・キャピタル」山田浩之編『都市祭礼文化の継承と変容を考える——ソーシャル・キャピタルと文化資本』ミネルヴァ書房
- ・小畑紘一 2013『祭礼行事「柱松」の民俗学的研究』岩田書院
- ・近藤敏夫 2017「公共と地域住民——町内会を軸にした地縁型組織の可能性」飯田哲也・浜岡政好編『公共性と市民 第二版』学文社
- ・パットナム、ロバート（河田潤一訳） 2001『哲学する民主主義——伝統と改革の市民的構造』NTT出版
- ・樋口博美 2014「伝統的都市の祭礼にみる共同性の維持と創造——山鉦祭礼の“祭縁”を事例として」『社会関係資本研究論集』第5号
- ・依田真美 2011「ボランティア・ツーリズム研究の動向および今後の課題」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』12号
- ・南丹市 2019 公式ホームページ
www.city.nantan.kyoto.jp/www/index.html
閲覧日2019年10月23日
- ・南丹市美山エコツーリズム推進協議会 2018 京都美山ナビ <https://kyotomiyama.jp/> 閲覧日2019年10月23日